



槐魂

～6月号～

生徒会広報部

ようやく、新学期に入りました。少しづつ生活リズムを整え、期末考査に備えましょう。

新型コロナウイルス

感染拡大防止対策について

新型コロナウイルス対策で、国が中学や高校などの臨時休業を要請したのは二月末。その後、多くの学校が休校になりました。四月に入ると、国内の累計感染者は三千人を超え、密閉・密集・密接の「三密」を避けてほしいという声が高まりました。

五月末、県外出身の生徒は、一週間の健康観察期間を過ごすため施設に移りました。感染対策のため、マスクの着用やアルコール消毒の徹底、生徒同士の「三密」を避けることに注意を払っていました。生徒たちは、自室で静かに過ごす時間が長く続いていました。六月一日に、入学式が行われ、全校生徒が帰寮した日、多くの生徒が久しぶりの再会で盛り上がりがありました。また、生徒同士の密集を避ける工夫が施されているところが寮の中でもありました。一つは、今まで使っていた学習室で学習することは、密集を避けることが出来ない、という理由から夜の学習時間を

舎室で行うことになりました。現在、このような工夫を生徒らの感染防止の為に先生方やスタッフの方々が様々な工夫を重ねられては支えられています。そんな方々の苦勞に伝えられるような楠筆の日々を過ごしましょう



(上) 三密を避けるため、各学級で給食を頂く様子。

〈白川〉

新任の先生 紹介 Ver.1

中尾光男先生

第一回目の新任の先生紹介ということで、中学三年一組の副担任を務められている中尾先生にお話しを伺いました。

前任校では、阿久根市立鶴川内中学校。担当は数学科。趣味は、楽器の演奏と神社巡りというユニークな先生です。

また、六月に入り朝補習も始まるので、その準備が間に合うかどうか心配そうにもしてました。ですが、「二日一日を大切に日々頑張っていくか」と話していき



中尾先生

した。最後に、「全校生徒に対してのメッセージは」と聞くと「これから二年間一緒に頑張っていくましよう。」と答えてくれました。

〈梅木〉

蛍光ペン…梅木

▼「海賊王を目指すルフィ」とその仲間たちが海を駆けめぐり、夢に満ちた冒険物語「ONE PIECE」。この物語の主人公、ルフィ率いる麦わら海賊団を二つの集団として見ると、いかに優れた集団でわかると思う。▼以前に漫画やアニメなどで見た人はわかると思うが、麦わら海賊団の船員には、航海士、コックや狙撃手など、不要な人物がいらないことがわかる。彼らは、差別や偏見はなく互いの能力・役割を理解し合ひ、足りない部分を補い合うことの大切さを無意識に理解しているはずだ。▼海では、たとえ船長であっても、偉そうに踏ん返りかえるのではなく、「他の仲間がいなくても自分も生きていけない」という真実を肝の銘じていなければならないのである。▼例えば、ラケヒで言うのなら、五郎丸選手が活躍しても、彼の方だけでは、とうてい試合に勝てないことを五郎丸選手をはじめチーム全員が理解している。突進力があるフォワードや後方から抜いていくバックス、チームメンバー全員の活躍なくして、勝利を勝ち取ることが出来ないと思う。▼歴史に名を刻んだ大海賊が仲間から慕われ、人に愛されたがゆえに、大業を成し遂げられたように、我々も他人の力を人一倍認め、尊重することで、より質の高い集団を作り上げることが出来るのではないだろうか。

第6回 入学式

六月一日、楠筆中学校では第六回入学式が行われました。一年生たちは、初めての楠筆生としてのイベントで、やや緊張していた姿勢で校長先生の挨拶を担当する先生方の発表などを聞きました。

一年生の皆さん、入学して間もなく、分からないことで混乱することもあると思いますが、先輩方や先生方を頼り、生徒一丸となって歩んでいきたいと思います。

寺原広佑先生

薩摩川内市から赴任された寺原先生。サッカー部やバレーボール部の顧問を務めた経験から、腕には自信があるそうです。

また、今年の寺原先生の目標は「料理の上達」だと言います。今の実力では、炒め物の料理以外は満足に作れないそうで、色々な料理を作れるように努力しているそうです。最後に、今回インタビュ



寺原先生

ーをした寺原先生から生徒に対して、「一年間頑張っていくましよう。」というメッセージもいただきました。今年も、中学二年一組の副担任と中学の社会科を担当されています。〈白川〉

仰げば尊し〜丸山先生〜

「将来の夢は特にありません。しかし、断言できることがあります。学校の先生には絶対になりません。」当時中学三年生だった私は、三者面談の時に高らかに宣言した。私は、教師をしていた父親の都合上、何度も転校を繰り返した。小学一年生の時は兵庫県の小学校に通った。小学二年生からは奄美大島の小学校に通った。小学五年生から中学一年生までは鹿児島市の学校に通った。その後、中学二年生から中学三年生までは、更に別の学校に通った。親しかった友人たちとの別れと、転校先での新しい友達作りを何度も繰り返した。私の学校生活は、まさに出会いと別れの繰り返しだった。新しい環境に馴染めず「前の学校に帰りたい」と涙を流したこともあった。その為、私の中では「教師」自分の子供に転校を強いる職業」というマイナスイメージが根付き、「絶対になりたくない職業ランキング」で不動の一位になったのである。

そんな私が教師になり、十数年が経過した。現在では、教師という職業を天職だと感じている。教師になるまでの心境の変化や過程を文字にすれば、広辞苑ほど分厚くなるだろう。東野圭吾や湊かなえの作品レベルのミステリー的な要素も含み、時には、ワンピースやハンター×ハンターレベルの冒険的な体験もした。進撃の巨人級に、スリルや衝撃も味わったこともあった。人生は何が起こるか分からない。だから面白い。進路が定まっていないう学生時代は、自分の人生を左右する人物との出会いや、考えが一変するほどの出来事がいつ起こるか分からない。だからこそ、他者との出会いを大切に、色々なことに挑戦して欲しい。

今の私には、夢がある。その夢を実現するためには、多くの時間と膨大な努力が必要である。人生で一番の挑戦である。その夢を、楠筆で勤務している間に実現させたいときは、この文章を示しながら、挑戦すること大切さを示しながら、挑戦することの大切さを改めて語りたいと考えている。

【編集後記】

お待たせいたしました。

二月から五月まで生徒会新聞の発行が新型コロナウイルスの影響によって中断され、四月月ぶりの発行となります。楠筆では、少し遅れた新一年生の入学・入寮も行われ、生徒の中では新しいメンバーの加入に喜ぶ声もあり、活気あふれる日々を送っています。

梅雨のシーズンメした雰囲気も拭き取れるよう、広報部も全力で楠筆を支えていきます。

令和二年度六月生徒会新聞発行責任者 梅木岳人